

H17年9月議会 一般質問

発言の種類	質疑	一般質問	緊急質問	討論	その他
件名	1. 安全マップの作成について 2. 安全教育について 3. 安心安全の情報システムについて				
発言の要旨 (討論の場合は 賛成反対の別)	1. 安全マップの作成について (ア) 防犯に対する行政の・米子市の役割について (イ) 地区防犯協議会での安全マップ作りについて 2. 安全教育について (ア) 小中学校での安全教育の具体について 3. 安心安全の情報システムについて				

○（森議員）（登壇） 会派未来の森雅幹でございます。私は通告に従いまして、2004年12月、そして2005年3月、旧米子市議会での質問に続きまして防犯対策について大要3点、1番目として安全マップの作成について、2番目として安全教育について、3番目として安心安全の情報システムについて伺いますが、まず全体的なところから質問をいたします。

戦後の混乱期をはねて平成16年は、若干件数下がったんですが、過去最高の犯罪増加、また警察での検挙率の低下、治安の低下、市民の不安は増大をしております。今まさに安心・安全のまちづくりが求められていると考えます。防犯対策は警察だけで解決できる課題ではありません。警察、行政、そして市民が相協力しあって、すなわち協働で初めて結果を出せると考えています。しかし、残念ながら行政の役割がはっきりとしていません。防犯に対する行政、警察、市民の役割分担を明確にして、そのことによってこのことに取り組むべきと考えますが、改めて行政、米子市の役割は何か伺います。

先ほども申し上げましたが、戦後最高の犯罪数、検挙率の低さであるにもかかわらず、市民の間に自分自身で自身を守るという防犯意識が浸透をしております。特に空き巣被害に限っていえば、無施錠の割合が60%となっております。これ県内ではありますが、ちなみに全国平均は30%であります。現在の犯罪の発生状況、現状をもっと子どもたちや大人たち、市民に伝える必要があります。現在、警察情報が公民館まで提供されることになりました。しかし、多くの公民館で市民の手にそれは届かず、そこでとまってしまっています。公民館から市民への伝達手段について、どのように整備をされたのか伺います。また米子市防犯協議会の目的、今年度の事業はどのようになっているのか伺います。米子市防犯協議会で具体的な提案、すなわち私は旧米子市議会3月議会でも述べましたが、三鷹市のように全市での防犯マップの作成をするべきと考えます。それぞれの地区防犯協議会で地域の安全点検を行い、地域住民がみずから安全マップを作成することにより、安全意識が向上をし安心・安全な町ができると考えますが、市長の所見を伺います。

次に2点目として、安全教育について伺います。いくら防犯防犯ということ声を高く唱えたとしても、大人がパトロールをしたりしても子どもたちが無防備で危険なところにみずから飛び込んでいけば安全を守ることにはできません。実際に子どもたちの身の安全を守るのは周囲の大人ではなく子どもたち自身であると考えます。すなわち子どもたちにみずから守るすべを教育すべきと考えますが、まだ子どもたち自身には危機意識が薄いのではないかと、そういうふうにと考えるとありますが、教育長の所見を伺います。また子どもたち自身が通学路などの安全点検をし、みずからできることをするとともに、大人たちとともに問題解決をしていく必要が

あると考えます。現状の子どもたちへの安全教育はどのようになっているのか伺います。

3点目であります。安心安全情報システムについて伺います。総務省の安心安全情報システムを導入するということで今議会に予算計上されていますが、本システムの目的は何か、そしてまた何ができるのか伺います。

以上、質問をいたしますが、答弁を受け再質問をいたします。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長）（登壇） 森議員の御質問にお答え申し上げます。

まず、防犯に対する行政の役割についてでございますが、これまで警察による犯罪の取り締まりや治安維持の取り組みが地域における犯罪発生の抑止に結びついてきたところでございますが、最近の犯罪の多様化、複雑化や犯罪の増加に伴い、地域の安全、安心を確保するためには地域住民の皆さんの果たすべき役割がとて重要になってきていると考えております。市の役割といたしましては、市民の安全、安心の確保のために必要となるさまざまな情報の提供や住民活動に対する支援などを初めとする防犯対策の推進であると認識しているところでございます。このうち犯罪に関する情報提供につきましては、米子警察署との間にことしの3月から新たに情報ネットワークシステムを構築したところでございますが、米子警察署から提供を受けた犯罪や交通安全などに関する情報につきましては、逐次校区防犯協議会にお知らせし、地区での防犯活動に活用するようお願いしているところでございます。また公民館や学校におきましても会合や地域での集会の機会や公民館だよりなどを活用し、適宜市民に提供をしているところでございます。

次に、米子市防犯協議会の目的、事業についてでございますが、防犯思想の高揚と防犯活動を強力に推進し、明るい社会の実現を図ることを目的として、自治会が設置される防犯灯設置費や電灯料に対する補助を初め、校区防犯協議会の活動を支援するための助成金の支出、防犯思想の普及のための啓発チラシの全戸配布事業が実施されております。本年度につきましても同様な事業が計画されております。犯罪の発生情報などを掲載した安全マップにつきましては、鳥取県警におきましてホームページを活用した侵入、車上ねらい、自転車盗、自動販売機荒らし、性的犯罪などの街頭犯罪について地図情報として提供するシステムを今年度中に運用されることから、地域や住民の安全、安心の確保につながるものと期待しております。その状況を見守りたいと考えております。なお、地域における安全、安心なまちづくりにつきましては、それぞれの地域によりさまざまな状況があることから、地域住民や地域にある各種団体や機関が連携、協力しながら、それぞれの実情に応じた自発的、自主的な取り組みがなされなければ効果的な防犯につながっていかないものと考えております。市と

いたしましても、これらの活動を支援するよう防犯情報の提供や防犯対策の推進に努めてまいりたいと考えております。

次に、安心安全情報システムについてでございますが、まずその目的でございますが、身近な生活空間における安心、安全の確立が緊急の課題となっている状況を踏まえ、住民パワーを生かした防犯・防災活動等に幅広く対応するため、市民がインターネットや携帯電話等のITを活用して地域の安心安全情報を共有できるシステムを構築しようとするものでございます。このシステムの概要でございますが、ソフトウェアの部分は地方自治情報センターから提供されることになっておりまして、電子掲示板での情報提供のほか緊急度の高い情報については、専用のホームページから配信を希望される方へ電子メールで送信する機能を有しております。また全市的な利用のほか学校単位等でグループを構成し、そのグループ内で限定された情報を配信することも可能となっております。

次に、警察が稼働を予定している犯罪情報システムとの連携についてのお尋ねでございますが、現在鳥取県においてその仕様を検討中であり、詳細はまだ決定されていないと伺っております。本市のシステムに一般的なホームページのリンクを作成することは可能と思われそうですが、運用主体も異なりますのでシステムとして直接連携することは困難ではないかと考えております。

最後に、本年度どのような運用をするかとお尋ねでございますが、本議会に関連予算をお認めいただければ、議会終了後必要な機器等の調達を行い、12月から実証実験に入る予定としております。この実証実験の中で警察、消防や防災無線で放送した情報を掲載、配信するほか、数カ所の学校、保護者の方でテスト的にグループを構成していただき、提供する情報の内容や基準などシステムの運用方法について検討していきたいと考えております。

○（生田議長） 足立教育長。

○（足立教育長）（登壇） 安全教育についてお答えいたします。

子どもたちの安全につきましては、やはり大人が子どもたちを守ってやるのがまず必要と考えます。その中で子どもたち自身も、みずからの身の安全を図るすべを身につけることができるよう指導していくことが必要であると考えます。子どもたちの危機意識が薄いのではないかと御指摘でございますが、学校では交通安全や不審者等の対応について事あるごとに指導を行うとともに、米子警察署や西部少年サポートセンターの協力を得て安全教室や防犯教室を行いながら意識の高揚に努めているところでございます。そのような指導のもとに、子どもたちがある程度の危機意識を持つことが必要だと思えます。しかしながらいたずらに危機意識をあり、必要以上に危機感や不安感を持たせることは避けるべきだと考えます。いずれにしましても保護者や地域の協力を得ながら、学校内を含め子

どもたちの環境が安全であるように最大限の努力を払うことが肝要であろうと考えます。その点、9月17日土曜日、森議員を初め関係者の皆様の御尽力により、箕蚊屋中学校区地域安全推進連絡会を立ち上げられ、青パトが16台も許可され活動されることに対しては敬意を表するものでございます。

次に、子どもたちに対する安全教育の状況についてお答えします。学校では年度当初の登校班を編成したりする際に、登校班ごとに教員がついて危険箇所や注意をする事項を現場で押さえながら子どもたちに指導を行ったり、先ほど述べましたように安全教室や防犯教室など外部講師による各種の教室を実施するなどの取り組みを計画的に実施しております。また事件の報道や地域からの情報があったときには、その都度必要な指導も行っております。安全マップにつきましては、子どもたちによって作成するような学習活動は行われておりません。しかしながら、学校によってはPTAや地域の方の手によってマップが作成されているところもあると聞いております。またある地域では、危険箇所に看板をかける取り組みの中で、子どもたちの手による図案や標語を入れる試みをされているところもあるようです。このように地域や大人の取り組みの中に、子どもたちの活動や子どもの視点を積極的に取り入れていただくようお願いしてまいりたいと思います。なお、さまざまな取り組みの中からできることがあれば、現在学校で行われている教科指導や特色ある学校づくり等に影響がない範囲で実施していくことは必要であろうと思います。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） 再質問してまいりますが、ちょっとあらかじめ登壇をして質問いたしました折にも2004年12月、2005年3月、旧米子市議会の質問をしたその上でというようなことを申し上げましたが、合併をいたしましたのでこれまでの旧米子市での市長の答弁が延長といいますか、基本的には消滅をしてなくなっているということでもありますけど、旧米子市は。そういった答弁が一つ一つもう1回聞かなくちゃいけないのかということが、整理しなくちゃいけないと思いますので、それは連続しているかどうかということについてちょっと市長にお尋ねします。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） もちろん新市となったわけでございますけれども、旧淀江町、旧米子市が合併した新市におきましても、従来からの両市町の考え方等を踏まえながら対策等を考えていくことになると思っております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） 今の答弁は、例えば去年の12月、3月にもう1回戻って、もう1回同じことを聞かなきゃいけないのかということ聞いたつもりですが、ちょっともう1回お願いします。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 御質問によっては答弁が変わってくることもございますし、御質問によっては同じ答弁をさせていただくこともあると思っております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） 私が聞いているのは、全部もう1回同じことを聞かなくちゃいけないかということ聞いてるんですが、それはほんじゃ変わるものがあるということですね。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 御質問によっては新たな観点から答弁することもあり得ましようし、御質問によっては同じ答弁になることもあるだろうと思っております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） このことはちょっと重要なところでして、すべての債権債務が新市へ引き継ぐということでこれは合併したと思うんですけども、当時そういった形で答弁をしていたということで、例えば財政状況というようなことで新たなことを言ってるんですけども、それはそれとしてのお話だと思うんですね。考え方と違ってというようなことが、例えば合併によって大きく変わってくるというようなことがあるんですかね、もう1回聞いてみます。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） どういう御趣旨の質問か私もちょっと理解に苦しむところがございますけれども、いずれにいたしましても旧市、旧町でいろいろ検討してきた内容は、いろんな事項におきましてあるだろうと思っております。そういう中で継続して実施すべきが適当だと思われるものにつきましてはそういう形で答弁させていただくことになると思いますし、また新たな町として考えなければならない事項等につきましては、また新たな町として考える事項としてお答えすることになるだろうと思っております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） ちょっと残念で、もう1回物事を最初から全部やり直せということになるのかなということで、ちょっと非常に残念な答弁ですけども、通告に従ってのちょっと質問で続行したいと思います。

同じような質問を今回もしているわけなんですけれども、結局、行政が役割がはっきりしないということを今回も同じ質問をしているんですが、地域の安全のためには住民が一番、もともとは警察の事務であるということの答弁、そして地域安全のためには次には住民だと、行政は3番目で、市は必要な情報や支援を行うんだということの答弁だったんですが、もう1回この今の私の理解でいいか伺います。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 先ほどおっしゃいましたその順番ということでございますけども、地域の安心、安全ということでありましたら、やはり関係機関、また住民の方々と協力しながらみんなで考えていかなきゃいけない問題だと思っております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） 訂正をされて一緒に同じ土俵でということで、答弁だったと、そういうふうに理解をします。そこで登壇の上で申し上げましたが、過去最高の犯罪数、また検挙率が最低だと、16年は若干数字がよくなっているんですけども、これは自転車盗とかが減ったというようなことなんで、侵入盗とか性犯罪系の事件はどんどんふえているとそういう傾向にあるものですから、そこでこれまで日本は安心、安全なところだということです。ずっときているわけなんですけど、この状況を見れば行政も今までどおりと違うんだというところをやはりやっていかなければ、今の状況をますます助長していくことになるのではないのかなとそういうふうに思っているわけです。そこでこの3月から警察情報を公民館までメール配信をされるということになったということは私はよかったなと、よくしていただいたというふうに思います。ですが、残念ながら、登壇して申し上げましたが、多くの公民館でそこでとまってしまっているわけですね、とまってしまっている。本当は地域の住民に対してその情報が届かなきゃいけないんですが、本来の公民館は生涯学習の場ですから、こういったことが本来の業務じゃないわけですよ、本来の業務じゃないわけです。したがってこれが積極的に住民へ届いていない。また地区の防犯協議会自体も活性化をしていないというか、いわゆる動いてないということがあって、実際には市民に届いていないのが私は大半だというふうに考えています。残念ながらうちの公民館でもそれがなかなか届いていない、こういう状況であります。これ、せつかく伝達手段をつくって公民館までは構築をされたわけです。それに当たってやはり最終的な防犯協議会、地区の防犯協議会までそれがうまく届くようなシステムをやっぱり指導していく必要があるんじゃないでしょうか。市長の話ですと、住民が自発的にやらなきゃどうにもならないというような待ちの姿勢では、今この非常に危機的な状況が全然変わっていかないんじゃないかと思うんですが、市長いかがですか。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 先ほどもお答え申し上げましたけども、ことしの3月から新たに情報ネットワークシステムを構築したところでございます。それで米子警察署から提供を受けた犯罪や交通安全などに関します情報につきましては、逐次校区防犯協議会にお知らせしまして地区での防犯活動に活用するようお願いしているところでございます。また公民館や学校におきましても会合や地域での集会の機会や公民館だよりなどを活用して、適宜市民に提供しているところでございます。議員おっしゃいましたように、

公民館は生涯学習の拠点ではございますけれども、それと同時に地域コミュニティセンター的な役割も担うことができるわけでございます、先ほども申し上げましたけども会合や地域での集会の機会や公民館だよりなどを活用して、私どもが提供します情報を適宜市民に提供しているところでございます。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） 6月の議会の答弁でも市長は公民館が地域コミュニティセンターの機能を持っているという答弁をされるんですけども、実際にどこにもそういったことは書いてなくて、ただ市長がおっしゃってるだけなんですけども、やはりそこんところを私は変えないといけないと思ってるんですが、きょうの質問の趣旨とはちょっと違いますのでこの話はここでおきますけれども、今回警察情報を流すというときになったときに、結局、私は公民館に指示をされたのは、文書を1本出して、文書でこれから公民館へ警察情報を流しますので地域へ周知してくださいというそれ1本ではなかったのかと思うんですが、ちょっとこれがわかればお答えください、こういった指示だったのか。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 担当部長に答弁させます。

○（生田議長） 矢倉企画部長。

○（矢倉企画部長） 防犯協議会に対しまして、これこれの情報が警察の方から参りましたので御活用くださいといったお願い文書をつけて、本体と一緒に、どこも自治会単位ですので公民館の方へ送付しました。そういう格好で校区防犯協議会に伝達をさせていただいております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） 結局そうだと思うんですね。文書1枚つけて、こういったことで活用してくださいということだと思うんですけども、先ほどから言いますように地域の方はこういった犯罪の状況、現在の治安の悪い状況というのは新聞等で知ってはいるんですが、具体的なことがわからないがために意識が薄い。その上に防犯協議会自体が自治連合会とほぼ同じような形での組織になっているために、あるいは公民館の中でも同じような組織がいっぱいあるがために具体的に防犯協議会という会議は持たれていない。そういったところもたくさんあると思うんですね。結果的にはそれが市民に届かない。そういったシステムになってるんだと思うんです。ここでやはり今の危機的な状況を、やはり行政の側が住民に働きかけていく必要があると思うんですけど、行政の側から防犯協議会やってくれというようなことをやっぱり出していかなきゃいけない。特に先ほども米子市防犯協議会の目的なり、そして今年度の事業について伺ったところですが、これが全然変わってないんですね。防犯灯の設置、防犯灯の補助、それから各地区の防犯協議会への支援、これ1万5,000円ですよ、年間1万

5,000円の各地区の防犯協議会への補助金を1万5,000円出す。それからあとは啓発のチラシを3月に折り込みで出す、それだけがこの米子市防犯協議会の目的ないし事業になってるんですね。これがずっと変わってないわけですよ。確かに毎年毎年防犯灯が数がふえてきている、600万円ずつ予算がついてふえてきているのは事実かもしれませんが、実際にはこの今の状況がそこでは件数とか報告されたにしても、新たな事業も何も出てこないんです。市長はここんところで3月議会で研究したいというようなことをおっしゃってるんですが、これについて現在どういうふうになっているのか伺います。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） いずれにしても防犯協議会の活動につきましては、従来から地域において防犯灯の設置ですとかチラシの配布等々、いろいろ役割を果たしていただいております感謝しているところでございます。その地域によっていろんな取り組みはあるだろうと思っております。そういう中で先ほど教育長も言及いたしましたけれども、箕蚊屋地区の地域安全推進連絡会というような地域の皆さん方での活動ですとか、それから防犯協議会の強化ですとかいろんな活動があるだろうと思っておりますけれども、地域ごとで取り込まれる活動につきましては私どもも今後とも情報提供に努めてまいりたいと思っておりますし、また防犯協議会を通じた支援ということもやっているわけでございますので、そういうものも続けてまいりたいと思っております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） ちょっと前に出ないんですけれども、安全マップの件に移ります。

安全マップということではちょっと具体的な提案をしてるんですけれども、全国的に子どもたちの安全が危ないということではいろんな取り組みがなされております。その中でやはり各小学校区でそれぞれ安全なところ、例えば危険なところ、事件は起きてないけれどもここは今後起こるのではないかというようなところを地域の住民、そして子どもたちが一緒になって点検をして、それをお互いに認識し合うということでこの安全マップっていうのは非常に私は重要なものであると考えています。同じような質問を過去にもしてるんですけれども、三鷹市では全小学校区にそういったそれぞれの学校区での安全マップっていうのをつくって、地域住民と一緒にその情報を共有し合うということをやっているわけなんですけれども、そういった具体的な取り組みをすることが、先ほども言いましたけれども各地区の防犯協議会を活性化をしていくことに私はつながっていくんだと思うんですが、市長の改めてもう1回そのあたりを伺います。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 安全マップにつきましては、鳥取県警におきましてホー

ムページを活用して地図情報として提供するシステムを今年度中に運用されるということを伺っておりまして、地域や住民の安全、安心の確保にもつながるものと期待しておりまして、その状況を見守りたいと考えております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） 警察がつくるのは犯罪が起こっているところを地図に落とすような地図なんですね。どこで起こっているかということウェブ上の地図であらわすシステムなんです。私が言ってるのは、ここは犯罪は起こってないけど危険な地域だよと、みんなで安全点検をしたならばここは危ないんじゃないの、そういったものを示していく地図をみんなでつくることが防犯協議会の活性化につながるんじゃないのかなということ聞いてるんですが、なおかつ県警がつくるものはホームページでしかあり得ないわけです。住民に配るものではないんですね。今これだけITが皆さんのところに入ったとはいえ、高齢者の皆さん、そういった方たちがみんながみんな見るわけではないんです。どの世帯も見わけではないんです。そういった意味で紙媒体でやっぱりこういうものをつくって、犯罪は起きてないけれども危険箇所、そういったものをやっぱりつくっていく必要があるんじゃないかと思うんですが、また私はこれに犯罪だけではなくて交通事故等の危険地域、それもあわせて安全マップをつくっていくべきだと思ってるんですが、それもあわせて市長の考え方を伺います。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 地域における安全、安心につきましては、それぞれの地域によってさまざまな状況があると思っておりますし、そういうことで今おっしゃったような安全マップ的な取り組みをしておられる地域もあるだろうと思っております。それを防犯協議会の役割として一律に防犯協議会にお願いするということも、その防犯協議会の役割が地域においてどうやっておられるかということは、今まで防犯協議会の目的、事業の中では当然あるわけでございますけれども、それ以上のものについてどういう形でやっておられるかっていうのはさまざまだろうと思っておりますし、またさまざまな団体、地域住民の皆さんの取り組みがあるだろうと思っております。ですからそれぞれの地域においてどういうふうに取り組まれるか、またそういうものに対して私どもが情報提供等で御協力できる場所があれば、また御支援できる場所があればしていきたいというふうにいるところでございますが、やはり主体的には地域での取り組みが重要だろうと思っております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） 地域での主体的な取り組みがないところに無理やりやれっというのは当然できない、そういうふうに私もそう思います。そのためにもやはり情報提供というのは非常に大事で、市長のおっしゃるとおりだと

思います。そこで結構この安全マップとかっていうものをつくるにはやっぱり費用もかかるということがあって、先ほども市長がその必要な支援をというようなことを言っておられるわけなんですけど、市の財政状況は非常に悪くて、このことは私もわかっておるつもりであります。そこでいろんな事業のスクラップ・アンド・ビルドをどうやってやっていくのか。そこんところは市長の裁量だと思ってるわけですけども、どういうふうに市長がそのスクラップ・アンド・ビルドをやっていくのか。これまでみたいに一律カットでそれで財源を生み出していくっていうことではなくて、あくまでやっぱりスクラップ・アンド・ビルドが私は必要だとそういうふうに思っています。なおかつ今市民が一番欲している一番重要なところは何なのかというところの見きわめというの、政治家たる市長のその力量にかかっているとそういうふうに思っています。また単純に先ほども何パーセントカットなんていう話をしましたが、時代に即したやっぱり予算立てをすべきだと思っています。そこには何が必要なのか。今の認識、時代認識、そして現状認識の上でやっぱりその予算が立ってくるんだと思ってるんですけども、私はすごくここに、防犯防犯ということについて今回3回も続けてやってるんですけど、非常に重要なことだと思っています。安心、安全というところがやっぱり今脅かされている一番不安を出すところだと思うんですけども、今後米子市が市民から信頼をされる米子市ということになる上においても、新たなその課題にやっぱり予算をつけていく必要があるんだと思ってるんですけども、そういった予算立てを考えるといいですか、前の答弁の中でも地域の皆さんの御意見を聞きながら研究してみたいというようなことをおっしゃってるんですけども、そういうあたりについての市長の決意をちょっと伺っておきたいと思えます。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 限られた財源の中で予算を効率的、効果的に使っていくということは今後の課題でございますし、やはり米子市の財政基盤、新しいまちづくりというものを進めながら財政基盤を確立していくということは重要な課題だと思っております。防犯対策に関します予算措置につきましては、市といたしましては本市における防犯対策に資するよう米子市防犯協議会に補助金を支出しているところでございますので、地域を取り巻く状況を踏まえ、その中で有効的な活用をまた防犯協議会の方々等とも相談しながら研究、検討していきたいと思っております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） 今のお話でそれが答弁にあって、今年度の米子市の防犯協議会の事業が今年度も去年と全く同じということが私は理解ができません。いろいろな課題があって、それが、問題点が明らかになってきて、どういうふうにそれをやるべきかっていうときに去年もことしも事業は一緒ですということではこれはいけないんじゃないかと思うんですけども、

市長、これについてはどういうふうを考えておられますか。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 従来からも行ってきておりますけれども、当然その予算の枠の中でどういうふうにも有効に活用していくかということでの予算配分の組み替えですとか、また必要に応じた対策を講じるだとか、そういうことはそれぞれの状況に応じて検討してきているところでございます。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） 検討の結果、これは全くことしも同じということで市長いいんですか。それともずっとこれ、例えば今までのその事業が私はずっとこれ変わってきてないと思ってるんですが、今これだけ、先ほども言いましたが犯罪件数がふえ検挙率が下がっているこの状況をどういうふうにも分析して、それが去年も同じ、おととしも一緒、そういうことになるんでしょうか。そのあたりちょっともう1回お願いします。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） いずれにしても防犯対策というものは警察、それから地域の皆さん、関係団体の方々なんかと御相談しながら対策を考えていかなければならないと思っております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） ちょっとしつこいんですけれども、そういった、例えばその地域の中でそういった自発的に自主的にそういったことをやっていく団体にあっては、そういった支援をしていくということでも理解していいですか、今の市長の答弁は。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） もちろんその性格にもよりますし、防犯協議会全体の予算との兼ね合い等もございまして、また県とか国とかそういうところからどういう支援措置があるのか、各団体がどういうものができるのか等々、総合的に勘案していかなければならないと思っております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） ぜひこういった課題に、これまでと同じ一律カットの世界の話でなくて、本当に今置かれている状況、米子市の状況、そういったところをどうやって変えていくのかということをお願いをしたいと思います。登壇での質問でも申し上げましたが、空き巣の被害に遭われた方の鳥取県の場合、米子も鳥取も一緒だそうですが、6割の方がかぎをしておられませんか。空き巣に入られた方の6割はかぎのない家に堂々と入って、物をとって出ていくわけです。こういったこと1つをとっても、やることは私は幾らでもあるのではないかと、当然警察もやらなくてははいけません、行政もやらなくちゃいけません。こういったことをどうやって全国平均、先ほども言いましたが30%、全国の空き巣の場合、無施錠の場合が30%とこういうことなんで、そこには30%もの開きがあるんですね。こ

のことを犯罪件数の多さ、そして無施錠の割合、市民の中ではまだ全然そういう意識がないということの私はあらわれだともそういうふうに思います。それはひいては行政が、米子市防犯協議会がいわば手を打ってこなかった、行政が手を打ってこなかったことに起因してるのではないかと、そういうふうにも私はとらえることができると、そういうふうに思います。ぜひ米子市防犯協議会から活性化をされ、そして地区の防犯協議会が課題を認識をし、動けるような形に支援ができるような対策をぜひお願いをして、次の課題、安全教育について移ります。

教育長の答弁の中で、大人が子どもを守ることが第1番目で、その中で次に子どもたちも自分の身を守るすべをやるべきだともこういう答弁がありました。また必要以上に不安を抱かせるのはだめだと、このことも間違いなくそうだと思います。残念ながら性犯罪系の被害を受けている子どもたちというのは、ほとんどが中学生ではなくって高校生がほとんどであるというふうに聞いています。ただ車の中から声かけをされたとか通りすがりに何かされたというようなこと、そういったことが中学生もたくさんあり、また小学生にも車の中から声かけをされたというような事例は後を引きません。先日、伯耆町と南部町の教育委員会を回り、お話を伺ってまいりました。そういった中ではある1回の子どもたちに声かけ事案があった、あるいは不審者が1人出たということについて教育委員会は非常に危機感を抱かれ、どういった対策ができるのかということでもいろんな対策を打っておられます。具体的にはよく皆さんも見ておられると思いますが、南部町の子ども見守り隊でしょうか、そういったようなマグネットシートを550枚ほどつくられて町民あるいは町内の事業者の皆さんの車に張ってそれで動いておられると。当然、こんな予算は教育委員会でするのではなくて、当然米子市の場合も市長部局である市民参画課の予算でそういったのはやるべきだともいうふうに思っていますが、要はその危機感の違いだと思うんですね。もう米子市の場合もなれっこになってるのではないのかなと。なおかつなれっこになっているにもかかわらず、子どもたちにはそれが浸透していないのではないかとこのように思うんですが、教育長の答弁では事あるごとに指導している、そういうことであります。確かにそのとおりだろうとは思いますが、実際には子どもたちが暗がりにもみずから飛び込んでいく、そこで被害に遭っていく、こういうようなことになってるのではないかなと思うんですが、再度ちょっと教育長にそのあたりのお話を伺います。

○（生田議長） 足立教育長。

○（足立教育長） 学校教育の中では、まず大人あるいは、指導をきちんと教師がやっていくんですけれども、親の方が、例えば見知らぬ人から声をかけられたときにはこうするんだよというような、家々で考え方が少し違っているとこがございます、親の考え方が。そういうようなしつけが小

さいときからしてありますと、例えば見知らぬ人だったらもう絶対に走って逃げるような危機意識が小さいときからできると思います。そういうような親と、そして学校は全体の指導の中でやっていくのでどうしても弱いところがあると思いますが、親もそういう意識を持っていただくと大変うれしいと思っております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） ぜひ子どもたちへの安全教育を再度見直しをしていただきたいなと思いますし、それからまた警察の側からも実は学校の方にぜひ安全教育をしたいということで、働きかけがあったり、現在も6年生と2年生でしょうか、小学校は6年生、中学生は2年生でしょうか、そういったところにやっていただいておりますが、やはりその学年学年に合った指導を私は根気よくやっていただかないといけないんじゃないかなと思っておりますし、それからまた夏休み前までにやはりこういった指導をやっていただく必要があるのではないかなと思っておりますので、ぜひこういったことがそれぞれの学校で夏休み前までに指導していただけるよう御配慮をお願いいたします。一方で、市民への安全教育についてはちょっとどのようになっておるのか伺います。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 防犯意識の高揚のための啓発活動につきましては、警察や県なども行われているところでございますけれども、市といたしましても防犯協議会を通じたチラシの作成や情報提供などを通じ努めているところでございます。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） そこでもう1回また防犯協議会に戻っちゃいますけれども、安全教育ってということでやはり私は防犯協議会の仕事の中に安全教育というのをぜひ入れていただいて、いわゆる研修制度といいますかね、防犯リーダー的な人たちを研修させていく、そんなシステムが私は市にやっぱり必要ではないかなというふうに考えています。全国で1番の防犯先進都市である春日井市は、防犯アカデミーというような形で講座を年に150人、50人クラスを3クラス、年間150人ということで現在10年間ほどされておられて、卒業生が約1,450人ぐらい現在おられるというふうに聞いています。そういった意味でいかに安全を守っていくのかということを行行政の側が教育っていうか、研修をする場を提供するというのをやっておられるわけですが、そういったことをやる考えがないかどうかちょっと市長に伺います。

○（生田議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 私の承知しておりますところでは、例えば講習会とかそういうものは警察が要望があれば幾らでもやっていただけるわけがございますし、と思っておりますし、またそういう啓発活動というのは必要な

ことでございますので、今後とも警察とか県と協力しながら、また防犯協議会ともお話をさせていただきながら啓発活動に努めてまいりたいと思っております。

○（生田議長） 森議員。

○（森議員） 市長の方からまあやっていきたいというような答弁だったというふうに信じたいと思いますが、ぜひそういった場を市で持つということが私は重要だと思います。警察の仕事だから警察でということではなくて、市が場所を提供してこういったカリキュラムでこういった研修を行いますと、講師は警察でとこういう形でいいと思うんですけども、そういった場をぜひ持っていただくことをお願いをして私の質問を終わります。